

山菜山行in塩沢川

大竹 尚子

■山行年月日:2022年5月28~29日

■メンバー:

(先発)大竹尚子 大竹幹衛 国分勉
斎藤憲一 佐藤敏二 佐藤澄江 佐藤
利伊 保科勝人 小沼充範 阿部満孝
石川貴大

(後発)榮利文 窪田道男 平田信良
長谷川桐子

今年の山菜山行は塩沢川中流域で行うこととした。地図で見ると笠倉沢出合の先に、平らそうな二俣があり良いテント場になりそうだと考えたからである。

この周辺は笠倉山へ立安沢からと、逆コースの笠倉沢からと両方から登っているが、塩沢川へは踏み込んだことがなかった。塩沢集落には塩竈神社があり、塩沢川上流にある馬尾滝の写真がある。立派な滝だ。さて、この一帯は山菜山行に適した場所なのか？後から来るメンバーも安全にたどり着けるのか？などと考えながら林道の終点に着いた。終点



いいブナが広がる。

と言っても林道はまだ先には続くのだが、車止めがありストップとなった。立安沢出合の少し下流辺りだ。

荷分けをして先発隊が出発する。林道の両脇の自然の恵みをいただきながら、時間をかけて寄り道をしながら進む。茅原の中に間欠泉の小屋がつぶれてあった。林道の終点で大休止し、山道に入っていく。途中、ブナの切り付けを見ながら進むと沢が合流して来る。笠倉沢出合いだ。後の人たちのためにテープをつける。

出合いからさらに続く踏み跡を辿ると、落差7m程の堂々とした滝が現れる。後で調べたら、「湧の滝」というらしい。カヤの広がる湧の滝手前が幕予定地だ。さっそくみんなで整地していく。一段下がった河原には流木もたっぷりで焚火にもピッタリの場所だ。私は見なかったが、滝の右岸にはひっそりと祠が祭ってあったという。地元の人が訪れて山の神に祈ったのであろう。

その後、手分けして大切な食糧調達に



立派な湧の滝

入る。ブンさんの足元を見ると何とわからじだ。ひと段落したところで、天ぷら、お浸しなどの山菜料理や岩魚の塩焼きなどで宴が始まる。保科さんのヨモギ団子のデザートもあった。しばらくして後発の榮さんがやってきた。さらに暗くなる寸前に道男さん、平田さん、長谷川さんが到着。暗闇の中で焚火がはじけ、いい夜だった。

翌日は、そのまま帰る人とさらに上流を目指す人に分かれた。7名が上流の馬尾滝を目指した。湧の滝をザイル使用で巻き、流れに戻ると本流は豊富な残雪で埋まっていた。流れの脇にはところどころに虎ロープがぶら下がっていた。雪渓の薄いところもあり、神経を使うところもあった。帰りの時間もあり、馬尾滝までは行けなかったが、見上げる岩壁と青空が心に染みた。引き返した地点は、右



まだまだ残雪が豊富。

岸に岩記号の有る所だった。昔は馬尾滝までの道案内もあったと小沼君が教えてくれた。帰りはブンさんが本領を發揮。ゼンマイで重くなったザックを背負い、テント場に戻った。湧の滝手前のブナ林にはゼンマイ採りで生活していた人の名前が切り付けてあった。道男さんが焚火のそばで待っていてくれた。

今回、到達できなかった馬尾滝に同じ季節に訪れてみたいものだ。



春の谷はいいねえ。